

別記様式2

## 副 専 攻 プ ロ グ ラ ム 説 明 書

開設学部（学科）名〔教育学部(第五類)〕

プログラムの名称	(和文) 心理学副専攻プログラム
	(英文) Psychology
<b>1. 概要</b> 現代社会は、高度情報化や経済のグローバル化の進展、地域社会や家族の変容など、これまでない速度で急激に変化している。このような社会状況において、人の在り方や生き方、社会の在り方が問われ、人々の心理学への関心が高まっている。心理学の知見を踏まえて「こころ」についての理解を深め、「こころ」に関連したさまざまな問題を解決したいという需要の高まりである。 そこで、心理学副専攻プログラムでは、心理学の知識を獲得し、「こころ」に関する理解を深めるために、認知心理学、学習心理学、社会心理学、教育心理学、発達心理学、臨床心理学といった心理学における主要な領域の講義を提供する。本プログラムによって、広範囲にわたる心理学の標準的な知識を獲得することができる。	
<b>2. 到達目標</b> 人間の認識や情報処理の仕組み、人間関係や社会の中で生きる人間、人間の学習や教育、心の成長のプロセス、心の悩みや適応への援助の仕方、脳や身体と心の関係など、心の仕組みや働き、心の問題を理解するための多様な知識を身につける。	
<b>3. 登録時期</b> 副専攻プログラムは、2年次前期（3セメスター）から開始する。 履修開始後の登録（事後登録）も可能。	
<b>4. 登録要件</b> 副専攻プログラム選択にあたっては、教養教育科目（領域科目）のうち、「心理学A」、「心理学B」、及び「心と行動の科学」を履修していることを要望する。 <b>【履修上の注意点】</b> 受け身で受講するばかりではプログラムの目標は達成できない。講義中に活発に質問や討議を行う、予習復習を欠かさないなどの、主体的・積極的に自ら学ぶという姿勢が重要である。プログラムは、講義ばかりでなく、個別の質問への対応や図書室や雑誌室の利用などの人的資源、物的資源の両方を最大限に提供する。これらを活用して、より良い成果を手に入れることを期待する。	
<b>5. 受入上限数</b> 制限は設けない。	

## 6. 授業科目

※授業科目は、別紙の履修表を参照すること。

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

## 7. 修了要件

別添の履修表に示す授業科目のうち、領域概論10単位以上、領域特論8単位以上を含む、計18単位以上を修得すること。

## 8. 責任体制

PDCA 責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価検討(check)・対処(action)の各責任者）

- ・計画、実施、評価検討、および対処は心理学プログラム教員会が行う。
- ・責任者は、心理学講座の主任である。
- ・教育学部の担当組織などによる外部評価を実施する。
- ・対処については、心理学プログラム教員会のみでなく、教育学部が責任をもって対応する。

## 9. 既修得単位等の認定単位数等

(1) 他大学等における既修得単位等の認定単位数等  
認定しない。

(2) 広島大学における既修得単位（科目等履修生として修得した単位を含む）の認定単位数等  
18単位まで認定する。

### 【副専攻プログラム履修に関する注意事項】

- 主専攻プログラムの授業時間割の関係で、登録した副専攻プログラムの授業科目履修が制限されることがある。
- 副専攻プログラムで開設されている授業科目も、本学共通の平均評価点(GPA)の計算対象に含まれる。

別表

心理学副専攻プログラム 履修表

科目区分	授業科目	開設単位数	履修セメスター						要修得単位数	開設学部	備考
			3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ			
専門科目	領域概論	認知心理学	2	○					10	教育学部	
		学習心理学	2	○							
		社会心理学	2	○							
		教育心理学	2		○						
		発達心理学	2		○						
		臨床心理学	2	○							
	領域特論	知覚心理学	2				○		8		
		対人心理学	2				○				
		児童・青年期発達論	2			○					
		乳幼児心理学	2			○					
		心理療法論	2			○					
		生徒・進路指導論	2		○						
		教育相談	2				○				
		精神医学	2				○				
合計								18			

〈履修上の注意〉

- 履修セメスターの○印は標準履修セメスター
- 副専攻プログラム選択にあたっては、教養教育科目(領域科目)のうち、「心理学A」、「心理学B」、及び「心と行動の科学」を履修していることを要望する。